

年 組 名前

2020年4月9日付豊田版

目の覚めるような真っ赤な車体の上に備わる、真新しい銀色のはしご。消防隊員がエンジンをかけると、巨体に似つかわしくないほど滑らかに動きだした。

はしご車バスケット4人乗り

とよた
とって
みだ



4人が乗れる大型バスケットを装備した新型はしご消防車。背後には建設が進む大型商業施設が見える＝豊田市四郷町で

豊田市北消防署にお目見えした新しいはしご消防車の最大の特徴は、三十センチ伸びるはしごの先端に付く大きなバスケット。乗員を従来の三人から四人に増やし、一度に救出できる人数が増えた。この規模のバスケットが付いた消防車は市内で初めてという。

署のある四郷地区では区画整理事業が進む。市消防本部の担当者は高層マンションや大型店舗を念頭に「高層階の災害でも効率的に救助できる」と期待する。

気になるお値段は一億九千九百六十五万円。新しい街を守るため、有能な車両と隊員たちが、あってはならない「その時」に備えている。（久野賢太郎）

問1：はしごは、何メートルまで伸びるでしょうか。

()メートル

問2：新しいはしご消防車は、どんなところが良くなりましたか。

()ところ

【活用にあって】

199,650,000円。

新しいはしご消防車のお値段に子どもたちはびっくりです。

授業では、地域の安全を守る活動について、消防署を見学したり、地図や資料などを調べたりします。その中で、消防署で働いている人の勤務体制や待機の仕方、訓練、施設・設備の点検活動などの緊急時への備えや対応に着目させることです。また、地域の人々の消防署への火災通報、避難訓練の実施、地域の消防団による防火を呼び掛ける活動などを基にして、地域の安全を守る働きについて理解させることです。

これらの学習を通して、消防車の値段は決して高くないということを実感させたいと思います。

解答例

問1：30メートル

問2：一度に救出できる人数が増えたところ